

# 第78回奥羽大学歯学会

## プログラム・予稿集

日 時：2025年11月8日(土) 8：55～12：40

口演発表 9：00～12：40

会 場：奥羽大学 附属病院棟 5階 臨床講義室

連絡先：福島県郡山市富田町字三角堂31-1

☎024-932-8931

奥 羽 大 学 歯 学 会

# お 願 い

## 会員の方へ：

- ・受付は会場入り口に設けます。
- ・会場の座席は順番につめてご着席ください。
- ・討議にはマイクをご利用ください。

## 発表者の方へ：

液晶プロジェクターによる口演

- ・単写のみで、データファイルはMicrosoft社のPower Pointに限ります。
- ・学会のコンピュータはWindowsのみです。
- ・利益相反 (COI) の開示：COIの有無に関わらずスライド 2枚目でCOIを開示してください。
- ・前日の試写時に、データファイルをUSBフラッシュメモリーで提出してください。
- ・発表当日は学会のコンピュータで実行しますので、特殊なフォントは埋め込んでください。
- ・学会開催前日の午後5時から、試写を行います。データをお持ちになり会場にお集まりください。その際、念のためご自身のPCも一緒にお持ちください。
- ・演者は、口演開始10分前に、次演者席に着いてください。
- ・口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。

時間の経過については、ベルで合図いたします。

7分経過 (口演終了1分前) ; ベル1回

8分経過 (口演終了) ; ベル2回

10分経過 (質疑終了) ; ベル3回

- ・口演終了後も座長の交代まで会場内でお待ちください。
- ・発表者は11月10日(月)16時までに、800字程度の事後抄録を、学会担当 前田豊信宛にメール添付して、送信ください。

【問合せ先】 学会担当 前田 豊信 (口腔機能分子生物学講座)

電話：024-932-8931, 内線3524 e-mail:t-maeda@den.ohu-u.ac.jp

# 第78回奥羽大学歯学会プログラム

8:55～開会の辞

瀬川 洋 会長

## —口演発表（学位口演10演題、一般口演3演題）—

座長 川原一郎

9:00～9:10

1. ラットモデルにおける気管挿管による気道粘膜の組織学的検討

○安部美優子<sup>1</sup>、山崎信也<sup>2</sup>

(奥羽大・大学院・生体管理<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔機能分子生物<sup>2</sup>)

研修コード1101 関連項目 (1) 0109 (2) 0302

9:10～9:20

2. ラット下顎骨におけるDEXを含む2%リドカインによる血管収縮の組織学的研究

○南木小杏也<sup>1</sup>、川合宏仁<sup>2</sup>

(奥羽大・大学院・生体管理<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>2</sup>)

研修コード0402 関連項目 (1) 1101 (2) 1105

9:20～9:30

3. 生理的味覚性発汗についての検討

○月村久恵<sup>1</sup>、高橋文太郎<sup>2</sup>、西 祐也<sup>2</sup>、高田 訓<sup>2</sup>

(奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>2</sup>)

研修コード0502 関連項目 (1) 0599 (2) 1106

9:30～9:40

4. デルフィニジンによるCa9-22細胞の増殖抑制

○月村義隆<sup>1</sup>、神林直大<sup>2</sup>、前田豊信<sup>2,3</sup>、金 秀樹<sup>1,4</sup>

(奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔機能分子生物<sup>2</sup>、

奥羽大・大学院・口腔生理・生化<sup>3</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>4</sup>)

研修コード0502 関連項目 (1) 1105 (2) 1107

9:40～9:50

5. 上顎洞底挙上術後のパノラマエックス線画像とCT画像の比較検討

○池田丈博<sup>1</sup>、臼田真浩<sup>2</sup>、高田 訓<sup>3</sup>

(奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・放射線診断<sup>2</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>3</sup>)

研修コード0202 関連項目 (1) 0603 (2) 0599

9 : 50 ~ 10 : 00 休憩

座長 南 健太郎

10 : 00 ~ 10 : 10

6. *Candida albicans*に対する糖尿病モデルマウスの宿主応答

○北村貴也<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

10 : 10 ~ 10 : 20

7. 糖尿病モデルマウスの*Candida parapsilosis*によるカンジダ血症の発症メカニズム

○濱村真紀<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>2,3</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>2,3</sup>  
(奥羽大・大学院・生体管理<sup>1</sup>、奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>2</sup>、  
奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>3</sup>)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

10 : 20 ~ 10 : 30

8. *Candida tropicalis*感染に対するT細胞及びB細胞欠如マウスの宿主応答

○佐川真里<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

10 : 30 ~ 10 : 40

9. 重症免疫不全マウスへのnon-*albicans* *Candida* spp.の感染と宿主応答

○金子正慶<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

10 : 40 ~ 10 : 50

10. *Candida albicans*による重度真菌感染症における抑制性サイトカインの産生

○小平杏子<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

10:50～11:00 休憩

座長 高津匡樹

11:00～11:10

11. 歯科用コーンビームCTの三次元画像による診断精度の解析

○金昌桓<sup>1</sup>、芹川雅光<sup>2</sup>、宇佐美晶信<sup>2</sup>

(奥羽大・歯・学生<sup>1</sup>、奥羽大・歯・生体構造<sup>2</sup>)

研修コード0202 関連項目 (1) 1101 (2) 0401

11:10～11:20

12. 奥羽大学歯学部附属病院における口内法エックス線撮影状況に関する報告

○茂呂祐利子<sup>1</sup>、島崎尚弥<sup>1</sup>、臼田真浩<sup>1</sup>、矢口剛士<sup>1</sup>、原田卓哉<sup>1,2</sup>、川原一郎<sup>1</sup>

(奥羽大・歯・放射線診断<sup>1</sup>、奥羽大・歯・生体材料<sup>2</sup>)

研修コード0103 関連項目 (1) 0105 (2) 1001

11:20～11:30

13. 喫煙者と非喫煙者における、唾液プロテオーム全体的パターンの定量化

○古山昭<sup>1</sup>、大須賀謙二<sup>1</sup>、川合宏仁<sup>2</sup>、山崎信也<sup>1</sup>

(奥羽大・歯・口腔機能分子生物学<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>2</sup>)

研修コード1106 関連項目 (1) 0301 (2) 1107

11:30～11:40 休憩

—特別講演—

座長 高田訓

11:40～12:40

「成人の保存的な歯科治療 一健康寿命延伸への貢献一」

奥羽大学 歯学部 歯科保存学講座歯周病学分野教授 高橋慶壯

12:40～閉会の辞

安部仁晴 副会長

## 口演発表抄録（学位口演発表）

9:00～9:10

### 1. ラットモデルにおける気管挿管による気道粘膜の組織学的検討

○安部英優子<sup>1</sup>、山崎信也<sup>2</sup>

(奥羽大・大学院・生体管理<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔機能分子生物<sup>2</sup>)

全身麻酔等で行われる気管挿管は、気道に炎症性変化を引き起こす可能性があり、これらは術後の咽喉頭痛、気道過敏症状、気道狭窄などの要因となる可能性がある。特に当日に帰宅させる日帰り全身麻酔においては、術後の気道症状を極力回避する必要があるが、気管挿管後の気道への影響を組織学的に検討した報告は少ない。そこで、本研究では、ラットを用い、気管挿管施行後における気道の組織学的变化について検討した。

研修コード1101 関連項目 (1) 0109 (2) 0302

9:10～9:20

### 2. ラット下顎骨におけるDEXを含む2%リドカインによる血管収縮の組織学的研究

○南木小杏也<sup>1</sup>、川合宏仁<sup>2</sup>

(奥羽大・大学院・生体管理<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>2</sup>)

最近の研究では、デクスマメトミジン（以下DEX）が局所麻酔薬における血管収縮薬として注目されている。リドカインに添加させると効果が増強するという報告も散見される。また、佐藤らのラットを用いた組織学的研究では、DEXはアドレナリンと同様に血管収縮作用を示した。しかしながら、DEXを添加した歯科用局所麻酔薬の血管収縮作用を組織学的に研究した報告はまだない。そこで、DEXを添加した2%リドカインが、ラットの下顎骨の血管組織に対し、どのような作用を示すのかを組織学的に明らかにすることを目的として行った。

研修コード0402 関連項目 (1) 1101 (2) 1105

9:20～9:30

### 3. 生理的味覚性発汗についての検討

○月村久恵<sup>1</sup>、高橋文太郎<sup>2</sup>、西 祐也<sup>2</sup>、高田 訓<sup>2</sup>

(奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>2</sup>)

味覚性発汗は味覚刺激により顔面に発汗が生じる現象で、耳介側頭神経症候群など病的な味覚性発汗と生理的味覚性発汗がある。生理的味覚性発汗は辛味を含む食品を食べたとき顔面や頭部から発汗する現象であるが、先行研究が少なく、その概要は明らかではない。本研究では、辛味における生理的味覚性発汗について検討した。

研修コード0502 関連項目 (1) 0599 (2) 1106

9:30～9:40

#### 4. デルフィニジンによるCa9-22細胞の増殖抑制

○月村義隆<sup>1</sup>、神林直大<sup>2</sup>、前田豊信<sup>2,3</sup>、金 秀樹<sup>1,4</sup>  
(奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔機能分子生物<sup>2</sup>、  
奥羽大・大学院・口腔生理・生化<sup>3</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>4</sup>)

デルフィニジンはアントシアニン由来の非メチル化フラボノイドで、抗酸化・抗炎症作用に加え、一部腫瘍で抗がん作用が報告されている。しかし口腔扁平上皮癌への影響は不明である。本研究ではヒト口腔扁平上皮癌由来のCa9-22細胞を用いて、アポトーシス誘導効果をMTTアッセイにて検証し、関連遺伝子の発現をRT-qPCRで解析した。これらにより、デルフィニジンは口腔扁平上皮癌において、抗腫瘍作用を発揮する可能性が示唆された。

研修コード0502 関連項目 (1) 1105 (2) 1107

9:40～9:50

#### 5. 上顎洞底挙上術後のパノラマエックス線画像とCT画像の比較検討

○池田丈博<sup>1</sup>、臼田真浩<sup>2</sup>、高田 訓<sup>3</sup>  
(奥羽大・大学院・顎口腔外科<sup>1</sup>、奥羽大・歯・放射線診断<sup>2</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>3</sup>)  
インプラント治療後の経過観察にパノラマエックス線撮影は不可欠である。しかしCT画像に比べ、アーチファクトや歪みなどにより正確な距離測定が困難である。そこで今回われわれは上顎洞底挙上術後の移植骨形態について計測し、パノラマエックス線画像とCT画像を比較検討した。

研修コード0202 関連項目 (1) 0603 (2) 0599

10:00～10:10

#### 6. *Candida albicans*に対する糖尿病モデルマウスの宿主応答

○北村貴也<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

糖尿病は、カンジダ血症の重要なリスクファクターである。本研究は、2型糖尿病モデルマウスであるBKS.Cg-Dock7<sup>m/+</sup>+/+Lepr<sup>db</sup>/Jclマウスに*Candida albicans* (*C. albicans*) を感染させて產生されるサトカインの役割を致死性と関連付けて明らかにすることを目的として行った。その結果、炎症性サイトカインと一部の抑制性サイトカインの有意な產生が認められた。しかし、カンジダ症の防御に関与するサイトカインの產生は認められなかった。このような炎症性サイトカインの選択的產生がカンジダ血症における致死性に関与していると考えられる。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

10:10～10:20

## 7. 糖尿病モデルマウスの*Candida parapsilosis*によるカンジダ血症の発症メカニズム

○濱村真紀<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>2,3</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>2,3</sup>  
(奥羽大・大学院・生体管理<sup>1</sup>、奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>2</sup>、  
奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>3</sup>)

*Candida parapsilosis* (*C.parapsilosis*) は健常人に対する病原性は低いが、易感染性宿主に対しては強い致死性を発揮する。易感染性宿主の中でも糖尿病患者は、カンジダ血症を惹起する頻度が高いとされる。本研究では、2型糖尿病モデルのBKS.Cg-Dock7<sup>m</sup>+/+Lepr<sup>db</sup>/Jclマウスに*C.parapsilosis*を感染させて、どのようなサイトカインが産生されるのかを明らかにした。IL-1 $\alpha$  及び $\beta$ , IL-6, MCP-1, MIP-1 $\alpha$ の有意な産生が認められ、多様な炎症性サイトカインの産生によって炎症反応が著しく亢進していると考えられる。一方で、カンジダ血症の抑制に関わるサイトカインの産生は認められなかった。このような選択的なサイトカイン産生が、糖尿病患者でカンジダ血症の致死性が高まる要因になると考えられる。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

10:20～10:30

## 8. *Candida tropicalis*感染に対するT細胞及びB細胞欠如マウスの宿主応答

○佐川真里<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

カンジダ血症は、重篤な真菌感染症である。原因菌としては、従来の*Candida albicans* (*C.albicans*) 以外に、non-*albicans* *Candida* spp.が原因菌となる頻度が増加している。中でも*Candida tropicalis* (*C.tropicalis*) は最も病原性が高いとされている。本研究は、T細胞とB細胞が欠如した免疫不全マウスであるCB17/IcrJcl-*Prkdc*<sup>scid</sup>マウスに*C. tropicalis*を感染させて産生されるサイトカインの役割を明らかにするために行った。その結果、炎症性サイトカインは産生されたが、抑制性サイトカインとカンジダ症の防御に関与するサイトカインの産生は認められなかった。この結果が、カンジダ血症における高い致死性に関連していると考えられる。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

10:30～10:40

## 9. 重症免疫不全マウスへのnon-*albicans* *Candida* spp.の感染と宿主応答

○金子正慶<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1,2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

*Candida glabrata* (*C.glabrata*) は、易感染性宿主のカンジダ血症の原因菌となる頻度が高い。また、その致死性には産生されるサイトカインの種類が関係するとされている。本研究では、T細胞とB細胞が欠如した免疫不全マウスであるCB17/IcrJcl-*Prkdc*<sup>scid</sup>マウスに*C.glabrata*を感染させて、どのようなサイトカインが産生されるのかを明らかにした。IL-1 $\alpha$  及び $\beta$ , MCP-1, MIP-1 $\alpha$ の有意な産生が認められたが、感染防御に関与するサイトカインの産生は認められなかった。感染防御機能の低下した宿主における特定のサイトカイン産生は、カンジダ血症の致死性に関与すると考えられる。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

10：40～10：50

#### 10. *Candida albicans*による重度真菌感染症における抑制性サイトカインの產生

○小平杏子<sup>1</sup>、玉井利代子<sup>1, 2</sup>、山家尚仁<sup>2</sup>、清浦有祐<sup>1, 2</sup>  
(奥羽大・大学院・口腔感染症<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔病態解析制御<sup>2</sup>)

カンジダ血症は世界的にも増加傾向にある重篤な真菌感染症であり、易感染性宿主で発症する頻度が高い。原因菌としては、*Candida albicans* (*C.albicans*) が多いとされる。カンジダ血症の死亡原因としてはサイトカインストームが考えられるが、サイトカインの種類は宿主の感染防御能力や感染するカンジダ菌種によって大きく異なる。本研究では、T細胞とB細胞が欠如した免疫不全マウスであるCB17/IcrJcl-*Prkdc*<sup>scid</sup>マウスに*C.albicans*を感染させて產生される抑制性サトカインの役割を致死性と関連付けて明らかにした。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0805

## 口演発表抄録（一般口演発表）

11:00～11:10

### 11. 歯科用コーンビームCTの三次元画像による診断精度の解析

○金 昌桓<sup>1</sup>、芹川雅光<sup>2</sup>、宇佐美晶信<sup>2</sup>

(奥羽大・歯・学生<sup>1</sup>、奥羽大・歯・生体構造<sup>2</sup>)

口内法の二次元画像は歯科用コーンビームCT（以下、CBCT）による三次元画像と同様の診断ができるのかどうかは明らかでない。そこで、6本の抜去歯を試料に口内法の画像上で根管内に関心領域を設定して輝度の計測をおこなった。同一試料をCBCTおよびマイクロCTでも撮影をおこなった。得られた三次元画像データ上で口内法と同様の水平断面像において根管数の観察をおこない、口内法の輝度との関連について検討をおこなった。

研修コード0202 関連項目 (1) 1101 (2) 0401

11:10～11:20

### 12. 奥羽大学歯学部附属病院における口内法エックス線撮影状況に関する報告

○茂呂祐利子<sup>1</sup>、島崎尚弥<sup>1</sup>、白田真浩<sup>1</sup>、矢口剛士<sup>1</sup>、原田卓哉<sup>1, 2</sup>、川原一郎<sup>1</sup>

(奥羽大・歯・放射線診断<sup>1</sup>、奥羽大・歯・生体材料<sup>2</sup>)

口内法撮影は歯科臨床において最も一般的な撮影法でありその使用頻度も多い。歯科医師はエックス線撮影にあたり正当化と最適化のルールを順守しなければならないと定められており、診断参考レベルは撮影条件の最適化をはかるためのツールである。今回、医療被曝研究情報ネットワークの2025年度版診断参考レベルの改訂にあたり、本学附属病院の照射条件の最適化をはかるための資料として口内法撮影の現状について調査した。

研修コード0103 関連項目 (1) 0105 (2) 1001

11:20～11:30

### 13. 喫煙者と非喫煙者における、唾液プロテオーム全体的パターンの定量化

○古山 昭<sup>1</sup>、大須賀謙二<sup>1</sup>、川合宏仁<sup>2</sup>、山崎信也<sup>1</sup>

(奥羽大・歯・口腔機能分子生物<sup>1</sup>、奥羽大・歯・口腔外科<sup>2</sup>)

唾液タンパク質を疾患の診断に利用する試みがなされているが、個々のタンパク質の発現量は個人差が大きいことが障害である。そのため我々は、唾液プロテオームの全体的パターンを診断に利用することを目的とし、唾液タンパク質を二次元電気泳動で展開して得られる全タンパク質スポットの、発現強度と累積発現頻度の関係を、指數関数あるいはべき関数で近似することで、唾液プロテオーム全体の特徴を定量化することを試みた。その結果、喫煙者と非喫煙者では唾液プロテオームの全体的パターンに相違があることが示唆された。

研修コード1106 関連項目 (1) 0301 (2) 1107

# 第78回特別講演



## 高 橋 慶 壮

### 【主な著書】

- 平井 順, 高橋慶壮. 臨床歯内療法学 —JHエンドシステムを用いて— クインテッセンス出版 2005.
- 高橋慶壮. 歯内療法 失敗回避のためのポイント47. クインテッセンス出版 2008.
- 高橋慶壮, 吉野敏明 編著. エンド・ペリオ病変の臨床. 医歯薬出版 2009.
- 高橋慶壮. 歯周治療 失敗回避のためのポイント33. クインテッセンス出版 2011.
- 高橋慶壮. 歯内療法における臨床思考の技術. デンタルダイヤモンド社 2014.
- 高橋慶壮. 考えるエンドドンティックス 一根管形成と根管充填の暗黙知と形式知— クインテッセンス出版 2015.
- 高橋慶壮. 考えるペリオドンティクス—病因論と臨床推論から導かれる歯周治療. クインテッセンス出版 2018.

### 【略歴】

- 1988年 岡山大学歯学部歯学科卒業
- 1992年 岡山大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）
- 1993年 英国グラスゴー大学歯学部博士研究員 (Denis F. Kinane教授に師事)
- 1996年 岡山大学歯学部助手
- 1999年 明海大学歯学部講師
- 2006年 明海大学歯学部助教授
- 2007年 松本歯科大学, 総合歯科医学研究所 硬組織疾患 制御再建学部門教授  
口腔インプラント科 科長（兼任）
- 2007年 奥羽大学歯学部歯科保存学講座歯周病学分野教授 現在に至る

### 【学会等活動】

- 日本歯周病学会 (理事・専門医・指導医)
- 日本歯科保存学会 (理事・専門医・指導医)
- 日本顕微鏡歯科学会 (理事)
- 日本顎咬合学会 (指導医、認定医審議会・顧問)
- 日本歯内療法学会
- 米国歯周病学会

# 成人の保存的な歯科治療

## — 健康寿命延伸への貢献 —

奥羽大学歯学部歯科保存学講座歯周病学分野教授

高 橋 慶 壮

日本に近代歯科学が導入されて以来、100年以上の時が経過しました。その歴史を振り返ると、米国の「技工士学校型歯学部」を模倣したため、長らく歯の置換（補綴）治療に偏重してきた経緯があり、保存的治療に精通した歯科医師の育成は十分とはいえない。現在も成人の歯の喪失原因は主に齲歯と歯周病であり、天然歯の保存は歯科医療の重要な課題です。本講演では、自身の臨床経験をもとに、現代歯科医療が目指すべき保存的な歯科治療の方向性について論じます。

多くの歯科学は治療学を基盤に発展してきましたが、歯周病学は疾患名を冠し、病態学が発展の礎となっています。齲歯と歯周病は生活習慣病であるため、患者教育による予防行動の推進と、定期的な口腔管理の継続が最適な方略です。

1993年にグラスゴー大学歯学部で勤務した際、Adult Dental Care講座は保存修復学、歯内療法学、歯周病学および補綴歯科学の4分野、保存治療と補綴治療から構成されていました。演者は歯内療法学と歯周病学から専門性を深めつつ、口腔インプラント治療を組み合わせた歯周補綴治療を実践してきました。欧米では歯周病学と補綴学が統合された

「歯周補綴学」が存在する一方、日本ではそれぞれ別講座として専門領域が細分化されています。細分化は垂直思考を促進する反面、水平思考の育成には課題が残ります。局所最適化と全体最適化の両立を意識した治療が求められます。

歯科医師としての専門的姿勢や臨床スタイルは日々の経験（経路依存性）に基づき形成されます。センメルヴェイス反射（経験や固定観念への過度な固執）を避けるため、他分野の最新知見を積極的に吸収し、共有意思決定（SDM：Shared Decision Making）を意識した個別化医療の実践が重要です。

- ・欧米：インターディシプリンアリー（専門医連携型）アプローチが主流
- ・日本：マルチディシプリンアリー（総合診療型）へ移行中

治療のゴールを患者に明確に示すことで、信頼関係の構築が容易になります。

本講演では、保存的治療の臨床実践例として、歯内療法および広汎型重度歯周炎（ステージIV、グレードC）患者に対する個別化医療を紹介し、保存的歯科治療の進歩が健康寿命の延伸にいかに貢献し得るかをお示します。

## 第79回奥羽大学歯学会予定

日時：2026年6月13日(土)

---

### －歯学会学会委員－

金 秀樹 (口腔外科)\*、前田豊信 (口腔機能分子)\*、宇佐美晶信 (生体構造)、  
島村和宏 (成長発育歯)、菊井徹哉 (歯科保存)、南 健太郎 (口腔衛生)、  
小嶋忠之 (口腔外科)、小林美智代 (口腔衛生)、山家尚仁 (口腔病態解析)、  
内山梨夏 (歯科補綴)、古山 昭 (口腔機能分子)

\*学会委員会理事

---